野田小学校　学校だより

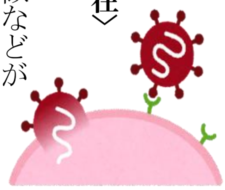
南風の丘から

学校づくりのモットー
明るく楽しく美しく

校長　大嶋博之

新型コロナウイルスへの対応

〈二月七日現在〉



コロナウイルスに対しては心配が続きますが、徐々に特徴などが分かってきて、その対応策も刻々と改訂されています。そこで今回、一連の情報をまとめました。まずは、今、主流となっているオミクロン株の概要です。

〈新型コロナウイルス(オミクロン株)**について〉**

- 症状は、**発熱、せき、けん怠感**など。無症状の人もいて、若年は軽症者が多い。
- **感染力が強く**、２日で他の人に感染する。
- 重症化リスクは比較的低いが、感染者の増加に応じて重症者や死者が増加している。
- 感染者数はピークを過ぎても減少スピードは遅く、長く続く。(諸外国や沖縄県の様子から)
- 医療等のひっ迫が生じ始めている。
- コロナウイルスは**今後も変異する**。

〈感染対策について〉

- **マスク(不織布)着用と１ｍ以上の距離**を保つことによって感染の危険性を下げることができる(50㎝以内では危険性が高まる)。
- 12歳以下の子ども(希望者)のワクチン接種開始時期は未定。
- 基本的感染対策は、今までの方法と同じ。特に**マスク(不織布)の着用は効果的**。

(以上、ＮＨＫ、国立感染症研究所等の情報から)

臨時休業や出席停止について

「臨時休業」という語句は法令用語で、一般には「学校閉鎖」や「休校」などと言ったりします。言葉を整理すると次のようになります。

- **学級の臨時休業…学級閉鎖**
- **学年の臨時休業…学年閉鎖**
- **学校全体の臨時休業…学校閉鎖、休校**

臨時休業実施の判断は、法令上は設置者(市教委)が行うことになっているのですが、今回のような場合は、学校(校長)が自校の状況を踏まえ、学校医や保健所の指導を受けて市教委に伺うという手順を踏みます。一方、出席停止は、校長の判断で行うのですが、濃厚接触の判断や児童の健康状態などが影響することから、**保護者をはじめ、関係機関との連携がとても大切**になります。そして、これらの作業を迅速に行うことが求められています。

〈臨時休業(休校・学級閉鎖)**について〉**

- 学級内で複数の感染者が確認されるなど、校内で**感染が広がっていると判断される場合**、臨時休業となる。(５日程度、状況による)

〈出席停止について〉

- **感染者は出席停止**となる。(無症状の場合は7日、症状があれば10日かつ症状軽快から72時間)
  ※お子さんの感染が判明した時は学校に連絡を。学校で、校内濃厚接触者の有無を調査します。
- **濃厚接触者※は出席停止**となる。(7日)
  ※濃厚接触者の判定では、マスク(不織布)等の感染予防策を講じず、感染者と手が触れる距離で15分以上接触があった場合等が候補となる。
- 濃厚接触者と判定されなかった場合は、自宅待機は求められない。ただし風邪等の症状がある場合は、必要な措置をとる。

(以上、文科省・厚労省・市教委資料等から)

感染を防ぐために

以上のことを踏まえ、学校で行う感染対策として、以下を進めています。

〈感染対策〉

- 「３つの密(密閉・密集・密接)」を避ける。
- 登下校を含め、**常時マスク(不織布が良い)**を着用し、こまめに消毒(給食前は手洗い)する。
- 健康観察を徹底し、清潔を保持する。
- 寒くても**常時換気**を行う。
- 手で触れる部分は一日一回消毒をする。
- 教材教具の貸し借りはしない。
- 人との距離を１ｍ保ち、対面とならない。
- 大きな声を出すなど呼気がたくさん出る活動や密集や接触がある活動はしない。
- 給食中は会話を控える。
- 来校者用に消毒・マスクを準備する。
- ゲストティーチャーや保護者、地域住民、他校の児童等との交流はしない。
- 感染不安による授業見学や登校控え等の保護者からの申し出や相談等に応ずる。
- **発熱等の症状がある場合や同居家族に同様の症状がある場合は登校しない。**(教職員も同じ)
- 児童には、学校が休みの日にも、マスクの着用など感染対策を講じるよう求める。
- 臨時休業時や無症状の自宅待機者には、端末(パソコン)を用いた学習支援(小４～６)や課題プリントの配布などを行う。

感染拡大を防ぐには、正確な情報が必要ですが、一方、感染者や濃厚接触者の個人情報などは誹謗中傷につながることがありますので、むやみにＳＮＳ等で流さないなど、その取扱いには十分に御留意いただきますようお願いします。

《心に響いた言葉》　「早くコロナが収まってほしいから、マスクも消毒もきちんとして、手洗いうがいもきちんとします。近くまでコロナが流行ってきているので気をつけたいです。」休み中の課題「コロナについて思うこと(５年 門畑君)」から

シリーズ「**令和の日本型教育**」とはなんぞや？〈第九回〉

世の中の変化の中で

教育の今後を調査・研究している国際的な機関にＯＥＣＤ※（経済協力開発機構）があります。

（※ＯＥＣＤ…名前のとおり世界の経済や貿易などのことを考えるのが中心ですが、その経済等を支える「人」をはぐくむ教育にも注目して研究が進められています。）

ここで唱えられている考え方の一つに**「エージェンシー」**があります。「エージェンシー」と聞いて「ハリウッド映画の悪役かな？」と思われた方も多いと思うのですが、元となる考え方は、これまで御紹介してきた「令和の日本型教育」や改訂された学習指導要領の趣旨と同じです。

〈エージェンシー（Agency）とは〉

「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」

- 将来的な目標を見据える力
- 批判的思考力
- 現状に疑問を持つ力 等

OECD Education 2030 プロジェクトから

〈学習指導要領で求められていること〉

「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」

学習指導要領解説総則編から

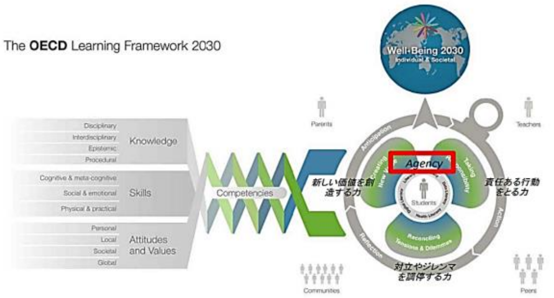
変化は始まっている

「大学入試の内容が、ガラッと変わっていた。」

これは先日、今年の大学入試を受験したお子さんの感想として、本校の教職員から聞いた話です。これまでの「知識を問う」内容から「考えを問う」問題が増えたとのことでした。小学校でも通知表の授業評価の観点が昨年度から変わりましたが、「知識・技能」を問うだけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性」がどれくらい身についているかを問うていると感じたとのこと。これは高校入試にも言えることで、先進的な高校では、入試項目に「プレゼン」を入れたり、論文を書かせたりする学校が出てきています。

このようなことを踏まえ（もちろん入試のためだけじゃなく）、**授業の改革**（主体的・協働的で深い学びのある授業づくり）、**宿題・家庭学習の改革**（言われたことしかしない学習習慣からの脱却）、**英検や漢検、週末のパソコン上の課題（小４～６）に果敢に取り組む意識改革**をはじめ、児童会活動や掃除・給食などの当番活動を含め、すべての教育活動をこれからの時代に生きる力（または、生き抜く力）を育てるものにアップグレードしていくことが求められています。

（アップグレード…性能や機能を向上させること）



（上図）ラーニングコンパス…エージェンシーの機能などを表している「学びの模式図」／OECD 資料から　（詳細は別の機会に）

《　主な行事予定　》

２月１０日に予定していた「おやじの読み語り、なわとび大会、絵本クラブ総会、学級部会（２年生）」は延期としています。（延期日程は未定、感染状況による）
（以下、現在の予定。コロナの状況次第で変更あり。）

〈２月〉
- ２８日（月）授業参観・学級部会(３年生)

〈３月〉
- １日（火）授業参観・学級部会(２・６年生)
- ２日（水）授業参観・学級部会(１年生)
- ３日（木）授業参観・学級部会(５年生)
- ４日（金）２分の１成人式・学級部会（４年生）
- １７日（木）卒業証書授与式
- ２４日（木）修了式、離任式

〈４月〉
- ６日（水）着任式、始業式
- ８日（金）入学式
- １３日（水）歓迎遠足・砂の造形（要弁当）

《コラム　あかね雲》

コロナと共に（with COVID19）

コロナへの対応には、ずいぶんとお国柄の差が出ています。外国の中で日本よりも感染率が数倍高く、亡くなる方もたくさん出ているのにもかかわらず「マスクはつけなくていい」とした国があるというニュースには正直「？」マークが頭のまわりにたくさん出ました。

一方、規制がかかった飲食店等では、苦しい経営が続いていると聞きます。学校でも子どもたちの貴重な時間が制限され、六年生の卒業は近づいています。このような中で**「どのような選択をするか」**が問われています。

感染リスクと経済とのバランスは、政治の判断を待つにしても、学校の中で**やれることの可能性を高める**努力はしなければならないと心に決めています。

《今日は何の日》２月９日…手塚治虫逝く、２月１０日…日露戦争開戦、２月１１日…エジソン誕生、２月１４日…豊田佐吉誕生、２月１９日…大塩平八郎の乱、２月２３日…中島みゆき誕生、２月２５日…海臨丸ｻﾝﾌﾗﾝｼｽｺに到着、２月２６日…２２６事件